

ご近所のお医者さん

☐ 728 ☐

協本産婦人科院長 **脇本剛さん** ー大阪市天王寺区

高齢女性は妊娠できない？

今夏の参院選の街頭演説で、某政党の代表が「高齢の女性は子どもが産めない」と発言したことが物議を醸しました。報道番組で著名なキャスターが感情を露わに、代表にその意図を問いただしたことも話題になりました。

波紋を呼

んだ背景にあるのは、リプロダク

「現実」伝え 意思を尊重

ティブ・ヘルス/ライツと呼ばれる、性と生殖に関する権利の存在です。子どもを産むか産まないか、産む場合は、何歳で、何人を産むかなどは、女性が

自分の意思によって決める権利であり、そのために必要な医療や支援を受けることができるかとされています。かの代表が何歳以上の女性のことを高齢と指していたのかは分かりませんが、妊孕性（妊娠するための力）は、35歳

を過ぎると低下が加速し、40歳を超えると顕著に低下します。これは生物学的な事実です。

高度生殖補助医療の進歩により、高齢でも妊娠できる可能性は以前よりも高くなりましたが、43歳を過ぎるとかなり厳しいのが現実であるため、保険診療では体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療を受けることができなくなります。

ある日、40代の患者さんが人工妊娠

中絶を希望して来院されました。お話を伺うと、今はまだ仕事に専念したいため、子どもを産むタイミングではないとのことでした。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点からは、この患者さんにどう向き合うべきでしょうか。今回は妊娠できたが、加齢とともに妊孕性は低下するので、次に妊娠することは難しいかもしれないことを伝えました。

女性が意思決定をする上でとても

重要な情報だからです。

不妊治療の現場を知る医師として、伝えるべきことを伝えることは患者さんのリプロダクティブ・ヘルス/ライツを守ることに繋がります。40代後半の著名人のおめでたいニュースを取り上げることは不妊に悩む方への励みにはなりますが、厳しい現実を正しく伝えることも女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツを尊重するためには必要ではないでしょうか。

